

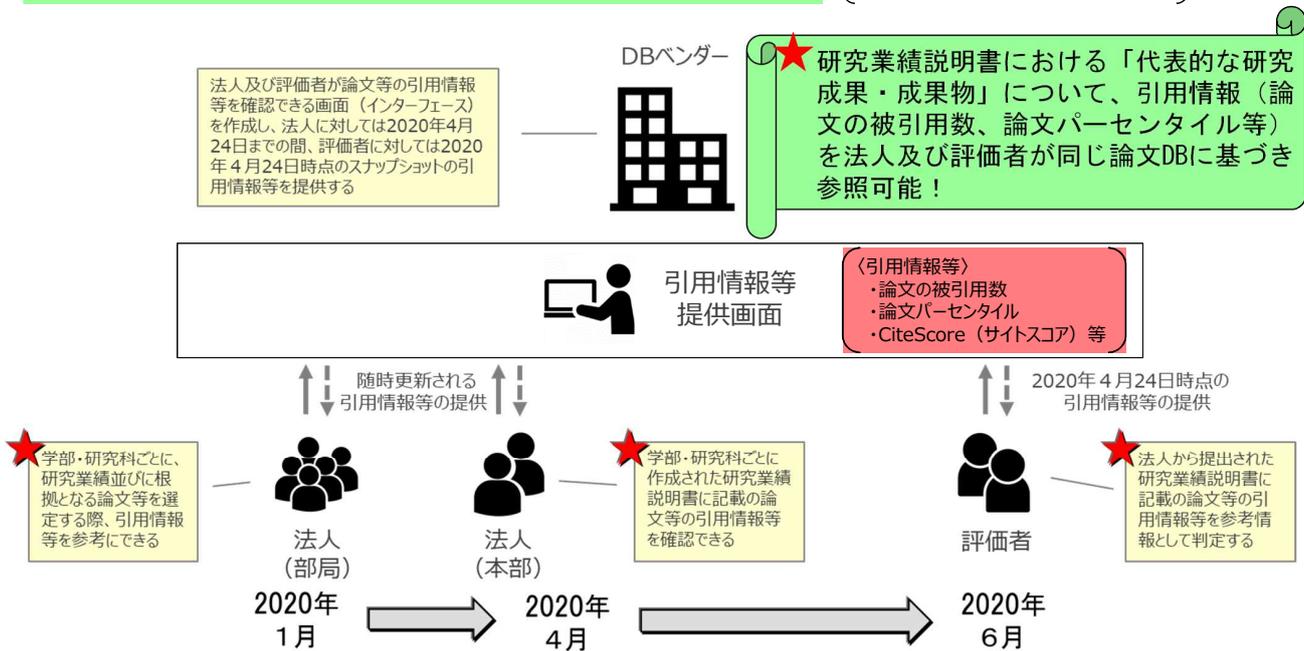


研究業績水準判定に関する システムの使用について（引用情報等提供）

資料4 国立大学法人等
評価実務担当者研修会

引用情報等提供システムのイメージ

国立大学法人等評価実務担当者説明会
令和元年7月30日・8月2日より一部修正



1



引用情報等提供システムの使用に当たって

- ・ 引用情報等を提供するデータベースは、エルゼビア社「Scopus」。後日、機構から使用に必要な書類を各法人に送付します。
 - ・ 様式「研究業績説明書」の構成に変更を加えることはご遠慮ください。（高さの変更等は構いません）
 - ・ 「代表的な研究成果・成果物」（最大3つまで）を入力する際、数字、英字及び記号は半角で入力してください。
- ⇒ 第3期 研究業績説明書イメージを参照

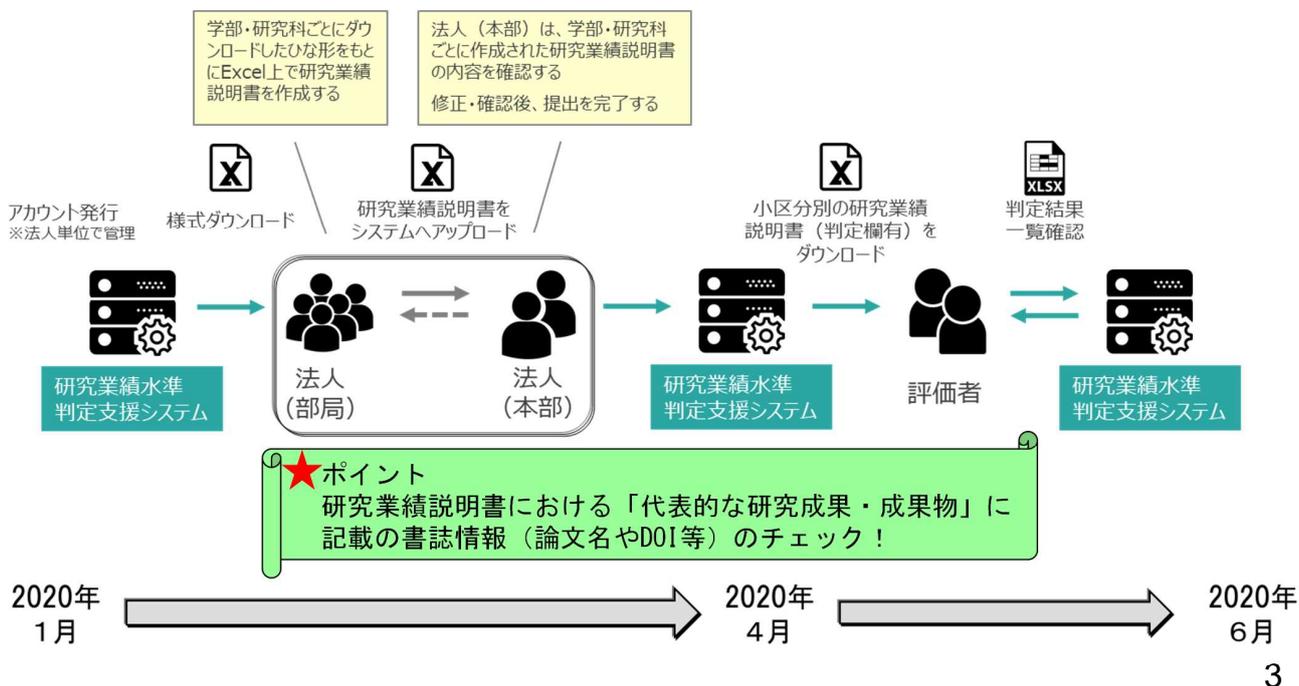
2



【参考 1】 研究業績水準判定に関するシステム（研究業績水準判定支援）

研究業績水準判定支援システムのイメージ

国立大学法人等評価実務担当者説明会
令和元年7月30日・8月2日 より



【参考 2】 作成に当たっての留意事項

国立大学法人等評価実務担当者説明会
令和元年7月30日・8月2日 より

- 選定できる研究業績数は、各学部・研究科等の専任教員数の原則20%を上限
→ 選定に際しては、第三者評価による結果や客観的指標等の根拠資料を基に、優れた研究業績として判断されるものを厳選
- 代表的な研究成果・成果物は最大3つまで
- 二つのシステムに「研究業績説明書」のデータを取り込むため、様式の変更は不可（行の高さの変更等は可）

※本様式の入力にあたっては、Windows10かつExcel2013以降のバージョンを御使用くださるよう、お願いいたします。

第3期 研究業績説明書 イメージ

法人番号 XX	法人名 〇〇大学	学部・研究科等番号 X	学部・研究科等名 〇〇学部・〇〇研究科	専任教員数 ③	[人]	提出できる研究業績数の上限 ④	[件]
<p>実績報告書作成要領の29ページに記載の番号(1~90まで)を入力してください。</p> <p>冒頭に「国立大学法人」「大学共同利用機関法人」「学術的業績」を記入してください。</p>				<p>原則、現況分析単位として登録してある組織の名称で入力してください(あまりにも長くなる場合は省略しても構いません)。</p>			

2. 選定した研究業績
 小区分番号を半角数字で入力すると、小区分名が表示されます。
 正しい小区分名となっているか、必ず御確認ください。【例】01010(哲学および倫理学関連)

業績番号	小区分番号	小区分名	学術的業績	社会的・経済的業績	⑩ 判断根拠(第三者による評価結果や委員の指摘等) 【400字以内、ただし「学術的業績」及び「社会的・経済的業績」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	⑪ 重複して選定した研究業績番号	⑫ 共同利用等	代表的な研究業績・成果物 【最大3つまで】						
								a) 著者・発表者等	b) タイトル・課題等	c) 発表雑誌・出版社・学会等	d) 巻・号	e) 頁	f) 発行・発表年等	g) 掲載論文のDOI (付与されている場合)
1	XXXX	〇〇〇〇の研究 本研究は、〇〇〇〇に關し、従来より課題となっていた、 この手法は、分析・解明したものである。この手法は、 画期的であり、これにより、 であることが明らかとなり、 することができることを示すことができた。	SS	SS	(1)は2019年度の日本〇〇学会の〇〇賞を受賞した論文である。この論文は、特 に〇〇〇〇において、「 」と言及されている。被引用回数に關しても、 〇〇〇〇において、合計〇〇回引用されている。また、本業績に關して、△△国 際会議では「 」の演題で、××国 際会議では「 」の演題で招待講演 を行い、その他国内の学会等を含めると、計〇〇回の招待講演を行った。 本業績は、当該分野のみならず、関連する△△△△の研究にも大きく貢献し、国 際学術誌▽▽▽▽において、「 」と高く評 価されている。			(1) XXX, XXX, XXX	〇〇	〇〇	pp.〇-〇	2019	〇〇.〇〇〇〇〇/〇〇〇〇〇〇	
2	XXXX	△△△△の研究 本研究は、△△△△について、従来まで考証さ れていなかった、 から考察したものである。本研究では、特に、 れていた、 について、 あることを論証したものである。	S		(0)は、当該研究の中核をなす論文、(2)は、(1)で論証した かにした論文であり、両論文は2017年度の日本△△学会の△△賞の対象となった ものである。(3)は、(1)(2)の内容を中心に、最近の研究動向をまとめた総説であり、 〇〇学会の〇〇において、「 」と言及されている。 また、これらの論文等から構成される「△△△△の研究」について、国際的学術誌 『〇〇〇〇』において、「 」の書評を受けており、 「 」という点が評価されている。	X-X-X		(1) XXX	〇〇	〇〇	pp.〇-〇	2017	〇〇.〇〇〇〇〇/〇〇〇〇〇〇〇〇	
3	XXXX	〇〇〇〇の研究 本研究は、従来の〇〇〇〇に關し、新たに を応用し、 という技術手法を開発したものである。こ れは、 「 」の中心となる 役割を担っており、当該技術に基 ^{△△△△} △△△△システムにより、 可能とした。		SS	(1)は実用性において評価の高い論文に与えられる〇〇学会の〇〇賞を2017年 度を受賞した。受賞理由は、「 」と記されている。 また、(1)で示された「 」という技術手法は、××新聞(2018年 〇月〇日)、△△新聞(同年〇月〇日)、◇◇新聞(同年11月24日)で書評に取り 上げられ、高い評価を受けている。 「 」の中心となる 役割を担っており、当該技術に基 ^{△△△△} △△△△システムにより、 可能とした。			(1) XXX	△△	△△	pp.△-△	2017	△△.△△△△/△△△△△△△△	

専任教員数を入力すると研究業績数の上限が表示されます。
 小規模の組織や専任教員が「0人」になる場合などの理由がある場合には、機構までお問合せください。

原則、現況分析単位として登録してある組織の名称で入力してください(あまりにも長くなる場合は省略しても構いません)。

数字、英字及び記号は半角で入力してください。

発行・発表年等は西暦で入力してください(末尾に「年」は不要です)。

代表的な研究業績・成果物を入力する際は、行をあげずに(1)か(2)か(3)に「年」は不要です。

DOIを入力する場合には、必ず半角英数字、記号で入力してください(冒頭に「https://doi.org/」、「DOI:」、「なし」などは不要です)。

